

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700226		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム風花 (風ユニット)		
所在地	山口県山陽小野田市桜一丁目3番1号		
自己評価作成日	平成24年7月25日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年8月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「皆に優しく 共に楽しく」地域の中でいつまでも自分らしく生活していける・・・の理念のもと、「お大師様」「敬老会」「お祭り」など、地域の方から利用者様が参加できる行事のご案内があり、お出かけする機会も多くあります。毎月お配りしている「お知らせ新聞」でグループの行事をご案内しており、今では婦人会・老人会・サークル・6つの自治会の方が1年を通して、生垣の剪定や庭の草抜き・季節の野菜作りや行事に参加して下さっています。昨年の秋の家族会では地域の方や法人内の有料老人ホームに入居の方などの協力を得て、秋晴れの中、総勢51名の大運動会を開催することが出来ました。一泊や日帰り旅行もあり利用者様・ご家族は普段と違った雰囲気を楽しまれています。運営推進会議で災害・水害への対策や準備へ向けて市役所や地域の方と話し合い、地域から期待される役割をもつグループとして、今年度は「災害時における当法人と自治会の対応について」の協定を結ぶことができ、助け合う関係が築けてきました。年2回ご家族にアンケートを実施しており、生活支援の見直しの機会にしています。接遇研修では挨拶や目線、言葉使いを学び、尊厳を大切にして利用者様に日々接することで、その方らしい生活が送れるように支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に地域から多くの方が参加しておられ、「事業所だより」や行事と勉強会の内容を載せた「お知らせ新聞」を配布して、地域からの理解が深まるように工夫されたり、防災訓練での避難誘導や見守り支援に地域の方や家族が参加を得る他、災害時の自治会や行政との連携の協定を結ぶなど、サービスの向上に活かすよう取り組んでおられます。事業所主催の大運動会は、地域の方や家族の参加と協力を得て、利用者と職員が全員参加して一緒に楽しまれ、これをきっかけに、家族、自治会、婦人会、老人会、ボランティアの方が1年を通して事業所に立ち寄られることが多くなり、庭や畑の手入れをしたり、勉強会に参加したり、利用者と共に行事や楽しみごとに参加しておられます。多くの方に見守られ、家族から「ここが第2の実家となりました」という言葉が聞かれるほど、利用者が安心して楽しい生活が送られるよう地域に根ざした支援をしておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700226		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム風花 (花ユニット)		
所在地	山口県山陽小野田市桜一丁目3番1号		
自己評価作成日	平成24年7月25日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年8月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアの4つの柱を方針に「横に座る」「その人を知る」「嘘をつかない」「ゆったりと穏やかに」の実践に努め、お一人お一人のペースで生活して頂けるように支援しています。24時間医療連携体制で、週一回の訪問診療と訪問看護・月二回の薬剤管理指導のもと利用者様の健康管理をしています。月二回ある法人の基礎研修や月一回のグループホーム勉強会で誤嚥・感染予防などは繰り返し勉強会があり、スタッフ皆が対応出来るようにしています。グループ独自の看取りの指針がありターミナルケアにも取り組んでいます。毎月、お配りしている「お知らせ新聞」や掲示板を見られた地域の方が、季節の行事や家族会にも参加され準備から後片付けまでして下さい。スタッフも地域のクリーン作戦や河川掃除に参加し地域の方との交流の場を作っています。入梅前には近隣自治会の方々と災害時の危険箇所・避難場所なども一緒に確認し、協力体制についても話し合っています。新しい取り組みとして、駐車場横に掲示板を設置し、短時間でできるボランティアの募集を始めました。介護に興味がある方から問い合わせがあり、利用者様と一緒に本を読まれたトランプをされたり午後の一時を過ごされました。

運営推進会議に地域から多くの方が参加しておられ、「事業所だより」や行事と勉強会の内容を載せた「お知らせ新聞」を配布して、地域からの理解が深まるように工夫されたり、防災訓練での避難誘導や見守り支援に地域の方や家族が参加を得る他、災害時の自治会や行政との連携の協定を結ぶなど、サービスの向上に活かすよう取り組んでおられます。事業所主催の大運動会は、地域の方や家族の参加と協力を得て、利用者と職員が全員参加して一緒に楽しまれ、これをきっかけに、家族、自治会、婦人会、老人会、ボランティアの方が1年を通して事業所に立ち寄られることが多くなり、庭や畑の手入れをしたり、勉強会に参加したり、利用者と共に行事や楽しみごとに参加しておられます。多くの方に見守られ、家族から「ここが第2の実家となりました」という言葉が聞かれるほど、利用者が安心して楽しい生活が送られるよう地域に根ざした支援をしておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念・ケアの4つの柱の唱和を行っている。業務日誌・風花メール・書類等に記載することで、サービスに対しての指針や姿勢を意識できると同時に、職員が理念を共有できるようにしている。法人の接遇委員会で理念を基に研修を行い、言葉がけや対応の在り方、姿勢等の指導を受けサービスの実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示し、事業所だよりや業務日誌に掲載している。朝礼や会議で唱和し、共有して、実践につなげている。	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、新人研修やグループホーム勉強会で理念を取り上げている。また、法人の朝礼や管理者参加の会議で全員で唱和し、職員全員の意識付けに努めている。時には代表に参加してもらい、理念から外れないように、考え方の共有、実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域へ向けて「お知らせ新聞」で施設内の行事をご案内し参加を呼び掛けている。近隣自治会の方は空いた時間に畑の手入れに来て下さっており、日常的に交流を持っている。また、地域の方に来ていただくだけでなく、こちらから利用者様と一緒に地域の行事へ参加したり、職員が地域の清掃活動に参加している。	自治会に加入し、職員が地域の清掃活動に参加する他、地域のお大師様、寝太郎祭、ホタル祭り、夏祭りに利用者と一緒に参加している。合唱団や折り紙などのボランティアの訪問、中学生の職場体験の受け入れ、保育園児と発表会や運動会などで交流をしている。散歩時や行事の時に地域の人と声をかけ合ったり、事業所の畑づくりや庭の手入れ、避難訓練への地域住民の参加、野菜の差し入れなど日常的に交流している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加して下さっている自治会長や婦人会の方々が風花の行事に参加して下さったり、苑庭管理にボランティアとして来て下さっており、季節の野菜を利用者様と一緒に育てている。今年実施の火災訓練にも参加して下さり、利用者様の避難誘導を職員と一緒にされ、終了後はアドバイスを頂くなど意見交換をした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3	風	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、介護や認知症・福祉施設についての質問や相談があり、その都度対応している。また、地域の方へアンケートを行い介護や認知症について知りたいと回答があった。グループホームの勉強会にご案内し、一緒に勉強する機会を設けている。		
3	花	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学は随時受け付けており、見学時にはゆっくりと風花の様子を見て頂き、ご質問等に対して説明をしている。地域の方がグループホーム勉強会に参加され、リハビリ職員から高齢者の介護技術を職員と一緒に学ぶ機会を設けている。今年は認知症についても一緒に学ぶ計画がある。		
4	風	(3) ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員で自己評価に取り組み、これまで自分が行ってきたサービスについて見直しをした。初めて自己評価に取り組む職員には他の職員からアドバイスや指導を受けることができるように工夫した。	自己評価に関するアンケートを実施し、会議で話し合い、理解して、全職員で自己評価に取り組んでいる。評価を活かして具体的な改善に努めている。	
4	花	(3) ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	グループホーム勉強会で評価の意義と目的を一緒に理解し、職員全員で自己評価を一ヶ月かけて取り組んだ。その後、会議で項目別に実践状況や課題を話合ったり、個別に指導するなどしてサービスに活かしている。また、外部評価の結果をサービスの振り返りの機会としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	風	(4) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者様の状況や生活の様子・風花の取り組みを資料を用いて報告している。報告に対してのご意見を頂き、支援に繋げている。自治会長の方の声かけにより地域の方々も行事に参加して頂けるようになった。防災についても質問や意見があり、訓練時に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用状況や活動報告、外部評価結果の報告等を行い、意見交換している。「事業所便り」や行事と勉強会の案内を載せた「お知らせ新聞」を配布している。防災訓練での避難誘導や見守り、勉強会への参加、地域行事に関する情報提供等について話し合い、意見をサービス向上に活かしている。	
5	花	(4) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況等を資料や風花メールでお伝えし、外部評価についても報告している。梅雨に入る前の会議では、地域の方から浸水しやすい道路や場所、避難のタイミングなど具体的に教わり、災害に備えている。食事会でアレルギー食やゼリー食の質問には、管理栄養士がお答えする等の対応に努めている。		
6	風	(5) ○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、市役所の高齢障害課・介護保険系の職員の方に参加を頂き、運営や介護保険、サービスなどについて相談を行っている。また、具体的なサービス内容について、わからないことを聞いている。	市担当者や地域包括支援センターとは、運営推進会議や地域ケア会議等で、最新情報や研修情報を得たり、個別の相談をして情報交換をし、協力関係を築いている。	
6	花	(5) ○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に法人の代表・ケアマネ他、多数参加している。ケアマネ協議会が市役所であり、地域包括支援センター・高齢福祉課の職員と共に医療・介護の在り方について研修がある。また、地域のグループホームの勉強会にも参加している。市から補助制度などを教わり、ご家族へお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	風	(6) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や法人の基礎研修において、繰り返し研修をしている。マニュアルがあり方針を決めている。利用者様それぞれの対応について会議で話し合いをしている。また、具体的事例をグループホームのリーダーが集まる会議で検討し、拘束をしないケアについて話合っている。玄関はいつも開けており、利用者様がいつも庭に出て花壇や畑を見て楽しめるようになっている。	マニュアルがあり、法人研修や事業所内の事例検討会で話し合い、職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。言葉遣いについては、接遇研修を行い徹底している。玄関は施錠せず、利用者の外出を察知したら、いっしょにでかけるなど、思いに添うよう支援している。	
7	花	(6) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約の時には重要事項説明書及び契約書で身体拘束の理念や方針をご家族に説明している。マニュアルがあり、身体拘束ゼロの取り組みとして、常に見守りが必要とされた利用者様には、スタッフルームに近い居室に移って頂き、安心して過ごして頂けるようにしている。		
8	風	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の基礎研修やグループホーム勉強会で、どのようなことが虐待となるかを学び、スタッフ間でも虐待になるようなケアが行われていないかを話し合っている。マニュアルもあり高齢者虐待防止関連法についても勉強会で学んでいる。利用者様に対して不適切な声かけや対応をしていないか職員間でも注意し合っている。		
8	花	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム勉強会・法人の基礎研修があり指導を受けている。法人のマニュアルもある。また、ケアにおいては身体的および精神的に虐待がないように職員間でも注意を払い、防止に努めている。意識のないままに虐待や人権無視になっていないかをグループホーム勉強会で意見交換し確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	風	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方はいないが、管理者は外部研修で学んでおり、スタッフも勉強会で学ぶ機会を設けている。必要に応じてご家族の相談にのる体制はある。		
9	花	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会を設けている。参加できなかった職員のために、資料や勉強会の報告書を回覧している。制度が必要とされる時には支援できるようにしている。		
10	風	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者や法人相談員が中心となり、重要事項説明書・契約書・パンフレットを見て頂きながら丁寧に説明し、質問を受けながら不安や疑問にお答えしている。理解・納得を図り同意を得ている。重要事項説明書の改定時には、ご家族へ事前にお知らせし理解が頂けるようにしている。		
10	花	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはご家族や利用者様に見学して頂き、不安や問題点を直接伺っている。契約に関しては担当者が十分に説明を行い、理解・納得を図り同意を得ている。リスクについても説明している。契約解除の時も利用者様・ご家族の要望に沿うように援助することをお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	風	(7) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に要望・相談の窓口をお伝えしている。要望や意見があった時には、会議で検討し早い対応に努めている。年2回のご家族へのアンケートは、意見や要望を匿名で聞き改善に繋げている。玄関にご意見箱を設置している。	相談、苦情の受付体制や第三者委員を明示し、契約時に家族に説明している。玄関に意見箱を設置する他、面会時や家族会、運営推進会議時、年二回のアンケートで意見や要望を聞いている。意見や要望は連絡帳に記録し、職員間で共有して、運営に反映させている。	
11	花	(7) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	寄り添い中に利用者様の言葉を聞き逃さないようにして、想いに気づけるように努力している。また、ケアカンファレンスでは居室や談話室を使い、落ち着ける雰囲気作りをして利用者様やご家族の意見・要望が聞けるようにしている。事業所に要望・相談窓口を置き第三者委員を設けている。玄関に要望箱を設置している。運営推進会議の折にも要望・相談窓口をお伝えしている。		
12	風	(8) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のユニット会議や月1回の合同会議で職員から意見が出せる機会を設けている。随時、職員からリーダーや管理者へ提案や気づきがあがっている。管理者から代表へ報告・相談し、医療用ベッドを3台購入してもらった。	ユニット会議や合同会議で職員の意見を聞く機会を設ける他、管理者は日ごろから、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。出た意見や提案は、月一回のリーダー会議で代表者に報告している。意見や提案を運営に反映させている。	
12	花	(8) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月二回のユニット会議や月一回のユニット合同会議で職員の意見や提案を聞き一緒に話し合っている。大きな議案については、月一回四グループのリーダーが集まる会議で代表に報告・相談をしている。利用者様が使い易くするためにトイレを改修したり、医療用ベッドへの変更を要望として挙げ、購入してもらった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	風	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月リーダーや係を決めて役割分担をし、やりがいを持って業務に取り組んでおり、実績を積んでいる。定期的に、ノー残業デーを作り、職員の疲労・ストレス軽減に繋げている。長期の病気療養後の復帰や結婚・妊娠時も働きたいとの要望にそえるようにしている。		
13	花	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務・公休希望についてはなるべく取り入れてシフトを組んでおり、休憩も取っている。また花見や忘年会は職員の集いの場になっている。法人からの助成や資格手当もあり、資格取得に向けて協力体制がある事でやりがいにつながっている。		
14	風	(9) ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の基礎研修は、同じ内容で月2回開催しており、職員が研修を受けやすい体制をとっている。勉強会や研修に参加できなかった職員の為に、資料とレポートが提出され、閲覧することで実績を積んでいる。外部講師による実技講習にも参加し具体的な介護技術を身につける取り組みをしている。新人職員には、経験のあるスタッフがについて介護技術などを教えている。	外部研修は経験や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、受講内容のレポートを回覧して、全職員が共有できるようにしている。法人研修(月2回)や研究発表会、内部研修(月1回)は年間計画によって実施し、受講者や講師にポイントが付与されるなど、職員が参加しやすい体制を作っている。資格取得にあたっては受講料の補助やシフト調整などを行っている。日々のOJTにも取り組んでいる。	
14	花	(9) ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を始めとして新任研修、月二回の法人の基礎研修に参加している。研修にはポイント制があり、出席者・講師にはポイントが付くようになっている。月一回グループホームの勉強会も行っている。法人は介護福祉士・介護支援専門員等の資格取得の助成を行っている。またグループで必要な資格研修は多くの者が参加できるようにしており、職員の育成に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15	風	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の会合や勉強会、交流会に参加し、お互いの情報や意見を交換することでサービスの質の向上につなげている。運営推進会議のあり、近隣のグループホームをお招きし情報交換を行っている。		
15	花	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、勉強会、交流会に参加している。運営推進会議の際、近隣のグループホームをお招きし情報交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16	風	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設を見学する機会を設け、利用者様とお話したり、ご家族から利用者様の様子を伺っている。スタッフ間で生活歴や心身状況を把握することで、会話に繋げ、本人に安心していただけるように努めている。		
16	花	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の時に施設の中の様子や居室を見て頂き、心配なことはないか、利用者様の不安を聞く機会を設けている。また、馴染みの物を持って来て頂く等してお部屋作りにも活かしている。担当者を決め、話し相手や相談相手になれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	風	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには法人相談員が親身になって対応し、管理者・リーダーもご家族の不安な思いを解消できるよう連携を図っている。また、すぐに担当職員を配置し要望を聴くことが出来るよう支援している。		
17	花	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族に見学して頂き、どのような場所での生活するのか知ってもらい、心配事やご希望等を聴いている。契約時には、ゆっくと時間をかけてお話をしている。担当スタッフだけでなく、管理者・ユニットリーダーもご家族よりお話を伺う機会を作っている。		
18	風	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・法人相談員・ケアマネ・管理者が連携し、本人の心身状態に考慮しながら、ご家族の意向も交えて必要とされるサービスについて話し合っている。本人に必要な支援を見極めて、ケアプランに取り入れたり、他のサービス利用についてもお話している。		
18	花	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族からお話を伺い、管理者・ケアマネ・相談員・職員が連携を取り、適切なサービスが無理なく行えるよう努力している。リハビリや歯科医による口腔ケアが必要な利用者様には適切なサービスが受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	風	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症になられても、日々の生活の中で利用者様それぞれ出来ることに目を向けている。畑や花壇で野菜や花を植える時には、利用者様からやり方を教わったり、台所に立つなど様々な場面で感謝の気持ちを伝えながら一緒にできる関係が築けている。		
19	花	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で自分の役割として、リビングや廊下の掃除・お膳拭き等を一緒にされる利用者様がおられる。体調に考慮しながらできることを無理なく一緒にしている。お互いが支えあう雰囲気を大切にしている。		
20	風	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月毎に、行事や日々の暮らしを写真や記事にした「風花メール」をお届けして、ご家族に日常の様子をお知らせしている。メールに載らない写真は個人ごとにアルバムを作成し、面会や家族会の折りに見て頂いている。遠方などで来苑が少ないご家族には、電話で出来事や気づきを報告し、ご家族とも情報を共有している。要望や気づきを機会ある毎に伺っている。		
20	花	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に利用者様の日々の様子や出来事を書いたケース記録を見て頂き、電話等でも適宜報告しながら一緒に考えていくようにしている。ご家族の希望で他科受診をされる時には付き添うこともあり安心に繋げている。ご家族と一緒に外食や行事もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚・女学校時代のご友人が面会に来られて、昔話をされたり近況の様子をお話しされている。職員を交えてお話することもある。外出や外泊される方もおられ、ご家族と過ごす時間を大切に考えている。	事業所が利用者姉妹の寄り合う場所になったり、居室で法事をする家族があるなど、家族や親戚、友人の訪問や宿泊の支援をしている。電話や手紙の支援、家族の協力を得て馴染みの美容院や商店の利用、墓参り、法事、旅行への参加など、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。	
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、婦人会や老人会の役員を一緒にしておられた方も、気軽に面会に来られ関係が続いている。仕事帰りに立ち寄られ利用者様が横になられるまでゆっくりとされる方もおられる。電話やハガキのやり取りもある。馴染みのお店や公園に行っている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者様となじめず一緒に過ごすことが難しい利用者様がおられたが、食事やおやつの時など機会ある毎に声をかけ一緒に過ごせるきっかけを作った。今では勧める必要もなく自然に皆様と過ごされている。気の合う利用者様同士で、お互いの部屋を訪ねておられる。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は利用者様同士の相性にも気を配っている。利用者様間でコミュニケーションが取りにくい方には、職員がさりげなく間に入り良い関係になるよう支援している。両ユニット合同の行事もあり、気軽に行き来されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	風	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内施設に移られた方が、時折、家族や職員と共に訪問して下さり、スタッフや他利用者様と一緒に思い出話をされている。退去時には、風花で撮りためた写真で『思い出アルバム』を作りお渡している。		
23	花	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際にはお見舞いに行っている。退去された方には思い出のアルバムを作成している。ご家族から「母らしい表情の写真があり施設の中で穏やかに暮らしていたのが伝わりました」と嬉しい言葉を頂けている。初盆にはお線香をあげにご自宅まで行っており、亡くなられてからもご家族は風花に遊びに来て下さっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11) 風	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の立場になって考える姿勢を大切にしている。利用者様の日々の行動や表情に気配りし、会話中の言葉を聞き逃さないようにしている。自己選択、自己決定できるような声かけや対応に努め、意思の疎通が困難な利用者様は表情や何らかのサインを見逃さないようにしている。知り得た情報はユニット会議等で議題にあげ話し合っている。	日頃の関わりの中での利用者の何げない言葉や表情、家族からの情報から、思いや意向の把握に努めている。把握した内容はケース記録に記録し、ユニット会議で話し合い、共有して、介護計画に活かしている。	
24	(11) 花	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事は気の合う方と一緒にゆっくりと食べて頂き職員も横に座っている。寄り添いや利用者様同士のお話の中から想いに気づけるように耳を傾けている。日々の行動や表情、つぶやきで利用者様のサインを見逃さないようにしている。意思の伝達が困難な利用者様は担当職員が中心になり、気付きなどを他の職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	風	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居・面会時、家族会、ケアカンファレンス等の機会を利用して今までの生活環境や生活歴をご家族から聞ける範囲でお伺いしている。お伺いしたことは、寄り添い表に随時記入しサービスに活かしている。		
25	花	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会・家族会・ケアカンファレンスの時などに、ご家族から利用者様の生活歴や生活環境についてお話を聞いている。新しく伺えたことは記録に追加し把握に努めている。利用者様との話の中からもこれまでの様子が聞けている。		
26	風	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の利用者様の様子や言葉を、『つぶやき』と題してメモをとりファイルしている。また個人記録・生活記録・連絡ノート等からも、できること・できないことの把握ができるようにしている。		
26	花	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に看護・介護・ご家族からの言葉を記入している。連絡帳にも気づきを記入し職員全員が一人ひとりの状態を知るようにしている。これまでの生活歴も参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスに利用者様とご家族に参加して頂いて希望や要望を聞き、ケアプランを立案している。立案したケアプランでは、利用者様のできること・したいこと、ご家族からの要望を色分けすることで実践状況の把握に努め、モニタリングに役立っている。利用者様の生活の変化に合わせ、ケアプランの見直しをしている。	利用者や家族の参加を得てケアカンファレンスを行い、家族旅行に行きたいという本人の希望を歩行訓練につなげるなど、本人の思いや家族の意向、かかりつけ医、看護師、栄養士等の意見を反映させた介護計画を作成している。3か月ごとにモニタリングを実施し、見直しを行う他、状態に変化があればその都度、見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	要望を利用者様に直接伺うと共に、利用者様が言われたそのままの言葉「つぶやき」を個人記録に記入し参考にしている。ケアカンファレンスに利用者様やご家族に参加して頂いており、電話や面会の時にも要望を伺っている。職員間でも会議をし介護計画を作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアプランのサービス内容を記入、ご家族や利用者様の要望が適切に実行されているか一目でわかるように色分けをしており、ケアプランの見直しに活かしている。出勤時、職員は担当するユニットのサービス状況を、個人記録・生活記録・連絡帳等から把握して1日のサービスにあたっている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を見直し、利用者様の様子、言葉、ケア内容、看護に関すること等、詳しく書くようにした。ご家族欄に、要望、報告状況等も記入するようしており、職員・ご家族共に経過がわかるようにしている。会議や連絡帳に気づきや変化を記入し、統一したサービスができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	風	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の希望により係りつけ医の受診の付き添いをしている。ご家族や知人へのお手紙も出せるように支援している。ご家族との二週間の外泊に向けて、法人のクリニックで歩行のリハビリが受けれるように通院の援助をしている。		
29	花	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	仏壇を持ってこられている利用者様で親族が集まれ、居室で法要をされた方もいる。遠くにおられる四人姉妹の集いの場所になっている。他科受診も都合の付かないご家族の代わりに付き添いをしている。協力医療機関との連携で24時間オンコール体制で看護師・医師との連絡とれるようになっている。		
30	風	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にお住まいの方が施設内にある畑や庭の手入れを、利用者様と一緒にして下さっており、利用者様の馴染みを感じるひとつの場となっている。また、公民館や文化会館での催し物等は利用者様の意向や趣味等に応じて参加している。法人の祭りは地域の方も来られ多くのボランティアの協力がある。運営推進会議には警察署、消防署、老人会、自治会からの参加があり災害時の協力要請や協力体制も話し合いが出来ている。		
30	花	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館や文化会館での催し物等は利用者様の意向や趣味等、体調に考慮しながら参加している。ボランティアの募集をしており、「時間があるから」と気軽に立ち寄って下さる方もおられ利用者様の楽しみに繋がっている。グループホームをサークル活動の発表の場として活用されておられ、利用者様も一緒に楽しんでおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医(皮膚科・耳鼻科)にご家族と協力して通院をしている。情報をお互い共有して適切な医療が受けられるよう支援している。当法人クリニックをかかりつけ医とされており、訪問診療や定期的にクリニックで健診を受けられている。定期健診に行く事が難しい利用者様には在宅総合診療を行っている。	本人や家族の同意を得て協力医療機関を主治医としている。月1回主治医の定期健診や訪問診療がある他、家族の協力を得て、本人や家族の希望する専門科への受診の支援をしている。受診時は日頃の状態を報告し、医療機関や家族と受診結果を共有し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が協力医療機関にかかっておられる。定期健診を行っており、結果は医師のコメントを添えた健康表を利用料請求と共に郵送している。皮膚科や耳鼻科については入居前からのかかりつけ医で治療を受けられている。受診の際は普段の様子や体調について伝えている。ご家族から要望がある時には通院介助している。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者様の体調変化の報告と相談をしている。訪問看護の日は、職員からの報告と、利用者様の体調を見て必要に応じて医師に相談する体制がある。医師からの指示は看護師から職員にわかりやすく説明があり、普段から気をつけておくべきことなども具体的に教えてもらっている。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護があり利用者様の気になる点を相談しアドバイスをもらっている。特変時にはその都度連絡や相談が出来るようになっている。必要があれば看護師を通し医師から指示を受けており、処置や受診が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	風	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護・看護情報提供書としてサマリーを作成し、必要に応じて病院とのやり取りをしている。退院には相談員を通して入院先の主治医や担当看護師とも連絡体制ができています。管理者は入院中にお見舞いに行っており、入院状況も確認している。		
33	花	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は度々、面会に伺い安心して頂くようにしている。希望があれば入院中、お部屋をキープすることが出来る。主治医、相談員、病院関係者と情報交換も行っており、退院後には併設の老人保健施設でリハビリを受けてグループホームへ戻って来られる方もいる。		
34	風	(14) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針・対応マニュアルがある。契約時より、看取りの意向確認を行い、看取りとなりうる早い段階からご家族・医師・看護師等と話し合いの機会をもっている。看取りに入っても、利用者様の状況が変わる度に主治医の指導のもと看取りの方針を家族と話し合い、随時、意思の確認に心がけ、思いに添える支援をしている。また、家族に泊まって頂ける体制も整えており、有料で食事もお出ししている。	「重度化及び看取りに関する指針」について、契約時に本人や家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族や職員、医師等関係者と話し合い、方針を共有して、チームで支援に取り組んでいる。看取りについても家族や本人の希望にいつでも対応できる体制にあり、これまでに10例のターミナルケアを経験している。	
34	花	(14) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針を書面で説明している。早い段階からご家族の意向確認をしており、利用者様のご様子に合わせて、ご家族・医師・職員と十分に情報交換し方針を共有している。ご家族への意向確認は何度も行い、同意書を頂いている。ご家族も一緒に最期の時間が過ごせるように居室を設ける等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	風	(15) ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	月に2回、法人の基礎研修があり、職員全員が事故防止や迅速な対応が出来るように学んでいる。マニュアルがありグループホーム勉強会でも具体的な対応などを身に付けている。法人にはAEDが設置してあり使用方法の訓練を受け、職員全員が急変時には対応できるようにしている。インシデント・アクシデント報告があり職員間でリスクについて検討し確認し合っている。	インシデント・アクシデント報告書に状況や発生原因、対応、改善策を記録し、事例検討を行って、一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めている。マニュアルがあり、法人研修や内部研修で、AEDの使い方や転倒、創傷、誤嚥等の対応について実践的な訓練を行い、実践力を身につけている。	
35	花	(15) ○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	各種の緊急マニュアルがある。グループホームの勉強会や法人の基礎研修で急変や事故発生時の対応・予防について学んでいる。誤嚥に関しては繰り返し実技講習を受けている。インシデント・アクシデントで利用者様のリスクを把握し、その都度リーダーから指導がある。また報告事例の多いことに関してはユニット会議で具体的に事故例をあげ検討している。救命講習も定期的に受けている。		
36	風	(16) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災や地震を想定に避難訓練を利用者様と一緒にしている。消火器は誰でも操作できるように訓練している。運営推進会議の時に災害や避難場所等を話題にあげ協力を呼び掛けており、火災訓練に地域の方やご家族も参加され、災害時の状況、対応の理解と協力をお願いしている。	マニュアルがあり、消防署の協力を得て、年2回、夜間想定を含む避難、通報、消火訓練を、利用者や家族、近隣住民が参加して実施している。運営推進会議で防災対策について話し合い、法人施設を避難場所とするなど、自治会や近隣住民との協力体制を築いている。	
36	花	(16) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応マニュアルがあり、それに基づき、年に2回、火災・地震を想定し、防災訓練を利用者様と共に行っている。3月には近隣自治会の方やご家族も参加され、具体的に避難経路や避難場所・搬送方法等を確認している。運営推進会議でも火災や水害について議題にあげ、地域の方との協力体勢も築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	風	(17) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルがある。ボランティアや実習生の受け入れ時にも説明している。契約時、ご家族に室名札や写真掲載許可の署名を頂いている。記録物は所定の場所に保管し、代理人の方しか公表していない。当法人の接遇委員会の接遇研修を全員が受けており、節度のある言葉遣いや姿勢に日頃から取り組んでいる。	法人の接遇研修や内部研修を受講し、職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。トイレ誘導時や入浴時、利用者一人ひとりの尊厳を大切にされた言葉かけや対応に努めている。利用者の個人情報や守秘義務については理解しており、責任ある取り扱いをしている。	
37	花	(17) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	風花メール、インターネット等の写真掲載等も同意を得ている。接遇員会より丁寧な言葉遣いや二言挨拶・語尾等、一年目、二年目研修を受けている。受容、傾聴の姿勢を常に意識し対応している。入浴・排泄の時は、利用者様を傷つける言葉を安易に使わないようにしている。自室で過ごされている時も、ノックをし入室をするようにしている。ボランティアの方にもしっかりプライバシー保護について伝えている。		
38	風	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望をしっかり聞くことが出来るように、一方的な声かけではなく、利用者様の言葉を待ち、利用者様が自己決定できるよう努めている。いつでも利用者様が声をかけやすいように、ゆったりとした雰囲気作りを職員一人ひとりが気を付けている。		
38	花	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴、おやつ、衣服を選んでもらう等、色々な場面で利用者様が決定できる声掛けを心掛けています。言葉で気持ちの表出が難しい利用者様には、その時の表情で想いを組みとるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	風	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で、今できることを勧めたり、談話・読書・テレビの視聴等、ご自由にできる環境を整えている。起床・就寝時間は定めず、個々のペースで生活ができるようにしており、利用者様自身の生活スタイルで過ごされるようにしている。		
39	花	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お昼寝や入浴など、その時の利用者様の希望に添えるように時間を工夫している。行事やお出かけ等も体調に考慮しながらお誘いしている。		
40	風	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装については利用者様の好みもあり、ご自分で選んでいただけるようにしている。重ね着や食べこぼし等があった時は、利用者様に恥をかかせないように誇りやプライバシーに配慮しながら声かけをしている。ご家族から今まで着ておられた服や帽子等を持って来て頂き、その人らしい身だしなみを支援している。整髪はなじみの美容院に行かれる方もいる。		
40	花	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は一緒に服を選んだり洗顔や整髪のお手伝いをしている。毎日、お化粧をされる利用者様もおられ、化粧品がなくなった時は一緒に買い物に行っている。ご自分で出来なくなられた利用者様の特別な日には職員がお化粧をして、その方らしい身だしなみの支援をしている。移動美容室を利用されカット・カラー・顔そり等されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房より配食があり、行事食は楽しみにしておられる。おやつの時に目の前でケーキをデコレーションしてもらい食べて頂くこともある。バイキング方式の昼食も企画したり、回転ずし、ファミレス等にも行かれている。食事の盛り付けや準備、片づけを一緒にしている。普段の会話から利用者様の好みを知り、お茶の時間や食事の際にお出ししている。	法人の配食を利用し、利用者は盛付け、配膳、後片付けなどを職員と一緒にしている。事業所で採れた野菜や果物、差し入れの野菜を利用した季節感のある献立で、利用者や職員は同じテーブルを囲んで会話を弾ませ、食事を楽しんでいる。行事食や出前調理(てんぷら、寿司、魚のさばき)、ウッドデッキでのソーメン流し、外食、おやつ作りをして食事を楽しむことのできる支援をしている。	
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けは職員と一緒にやっている。食べる時には職員も隣に座ってお話をしながら一緒に食べている。天気の良い日にはウッドデッキで気分を変えておやつを召し上がって頂く事もある。外食も楽しみにされている。ご家族が面会に来られた時は、自室で一緒にゆっくりとお食事をされることもある。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により、その方に合った食べやすい食事の指導をうけている。全員食事・水分摂取量を記録しているが、体調不良になられた時は細かいチェック表を使い医師に報告・相談・指導を受けている。一人ひとりの状態や嚥下能力、習慣に応じた支援をしている。一日1400Kcalの食事を目標にしている。月1回の体重測定は体調変化の目安の一つになっている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量・水分量を生活記録に記入しており、訪問診療や訪問看護の時に報告し体調管理に努めている。ミキサー食・トロミ食・ゼリー食のアドバイスが管理栄養士からあり、味付けの方法も指導を受けている。食事量が落ちてきた方には、高カロリー、高栄養の食品や利用者様のお好きなものを食べて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	風	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師による義歯の調整や歯科衛生士による口腔ケアを受けられる利用者様もおられる。歯科衛生士からの指導説明書を参考に歯磨きの声かけをし、義歯の洗浄・消毒や口腔ケアを支援し清潔保持に努めている。口腔ケアは肺炎や病気の予防、ADLの向上につながることを意識している。		
43	花	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・歯科衛生士の往診があり、義歯の調整や定期的に口腔ケアも受けておられる。ブラッシングの指導を職員が受け、口腔ケアに活かしている。入眠前に義歯をお預かりして誤嚥性肺炎の予防に努めている。義歯は適宜消毒しており、歯ブラシは形状の確認をして交換している。		
44	風	(19) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄ができることが大切と考えている。放尿がある利用者様の排泄パターンを調べ、その方のトイレのサインとなる行動をつかみ、放尿の回数が減るように取り組んだ。尊厳を大切に考え、出来るかぎり布シーツを使用して頂き、トイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、自尊心を大切に声かけや対応をして、トイレでの排泄の支援している。	
44	花	(19) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、その方に合った時間にトイレ誘導することで一回でも多くの自力排泄が出来るように支援している。立位が難しくベットでパット交換していた方もこの取り組みでトイレでの排泄が出来るようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	風	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士の作る献立での食事提供と、適度に体を動かす機会を作ることによって便秘予防に努めている。日々の排便を生活記録に記入し、排便がない場合は水分摂取量の確認し、主治医の指導のもと、排便コントロールを行っている。		
45	花	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の有無を確認し、便秘の早期発見に繋げている。お腹の張りや水分量に気をつけており、看護師から排便につながるマッサージの指導を受け、なるべく自然排便ができるよう便座に座って頂いている。便秘症の方は医師・看護師の指導の下、排便コントロールをしている。		
46	風	(20) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は就寝前にお風呂に入る生活習慣の方が多く、14時から20時まで入って頂いている。お一人おひとり好みの温度をお伺いし、ゆっくり入浴して頂いている。拒否がある方には、時間を空けて声掛けをおこなったり、立たれたタイミングに合わせて入浴をして頂いている。	14時から20時まで、本人の希望する時間に毎日入浴できる。本人の希望や状況に合わせてシャワー浴や足浴、手浴、清拭の支援をしている。季節により柚子や菖蒲、入浴剤を入れて、入浴を楽しむことができる支援をしている。	
46	花	(20) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は14時～20時とし、希望の時間に入れるようにしている。一番風呂がお好きな利用者様には一番に声かけする等、希望やタイミングに合わせている。菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤を使用し好みの温度に調整して気持ちよく入浴して頂ける様に工夫している。手浴・足浴も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	風	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて休憩や昼寝等自由にして頂いている。季節に合った寝具や室温、湿度に気をつけ、夜「眠れない」と起きて来られる利用者様の話し相手になったり、「おなかかすいた」と言われた時には軽い食べ物やお好きなお飲み物をお出して眠れるように支援している。		
47	花	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を持ってこられている利用者様もおられ、適宜にシーツ交換をし、気持ちよく休んで頂いている。利用者様の好みに合わせ、電灯の明るさを調整したり室温にも気を配っている。リクライニングソファもあり、お昼寝をされる方もおられる。		
48	風	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬マニュアルを作成し手順に沿って行っている。お一人ずつに手渡しし確実に飲まれたか最後まで確認している。月2回薬剤管理指導で薬剤師より薬の効能・副作用・用法等の指導を本人、家族のかわりに受けており、薬の変更があった場合は、薬情報と変更の理由を記入したものを定期的に家族に郵送している。状態の変化が見られた時は医師に状態を伝え見直しをしている。常に医師・看護師・薬剤師と連携を図っている。		
48	花	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から処方されている薬についての情報紙がもらえ、服薬時間や副作用についても確認できている。薬は手渡しし、飲み終えるまで確認している。薬剤管理指導時には体調や服薬状況を伝え、薬の形態や飲み方について指導を受けている。新しく処方された薬は連絡ノートで職員全員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴から趣向を踏まえ、利用者様にあった地域での行事や施設内での行事のお誘いをしている。施設内にある畑での野菜作りを利用者様に教えてもらいながらしている。花の好きな方は庭に咲いた花や、ご家族が持って来られた花をリビングに飾って頂ける場面を作っている。歌の好きな方はカラオケを楽しまれている。	テレビ、新聞、読書、習字、ちぎり絵、折り紙、カルタ取りなどで楽しみ、ボタン付けや雑巾縫い、洗濯物たたみ、菜園の見回り、収穫、草取りなど生活歴を活かした活躍の場を作っている。おやつ作り(柏餅、桜餅、おはぎ、ぜんざい、ぎょうざ)、誕生会、季節の行事(豆まき、ひな祭り、花見、七夕、納涼祭、運動会、クリスマス会)などを家族やボランティア、地域住民と一緒に楽しめるよう支援している。	
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽や絵画が好きな方はコンサートや展覧会にお誘いし、一緒に行っている。甘い物が好きな方は、職員とお隣の甘味処「古粹」やファミレスへ行かれる事もある。自分の役割として食後のお膳拭きや、洗濯物を職員と一緒にたたんで下さっている。野菜の様子を毎日見に行って下さる方もおられる。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・外食・買い物・四季の花見(桜・つつじ・紫陽花・菖蒲・バラ・コスモス・梅)等、外出の支援をしている。遠出が無理な利用者様には周辺のお散歩にお誘いしている。隣の和風喫茶に行った時には、お店の方が気兼ねなくゆっくり過ごせるようにと席をセッティングして下さっている。	近隣の散歩やスーパーでの買い物、喫茶店、ドライブ、家族との旅行など本人の希望に添って出かけられるよう支援している。初詣、どんど焼き、地域の寝太郎まつり、ふれあい文化祭、ホテル祭り、盆踊り、納涼祭、市民音楽会、ぶどう狩り、季節の花見(梅、桜、つつじ、紫陽花、コスモス、紅葉)、保育園の運動会など季節や地域の行事に合わせて、家族や地域のボランティアの協力を得て、外出できるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日等特別な日に担当職員と一対一のお出かけもしている。天気が良い日には近所の神社に散歩に行っている。ご家族と季節の花見やドライブ・食事に行かれることもある。地域の方の協力があり、夜間にあるホテル祭りにも出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	風	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布の中にお金がないと不安になる利用者様には、ご家族と相談して持って頂いている。希望を伺い、自動販売機やスーパーに買い物に行く機会を作り自分で支払いが出来るよう支援している。		
51	花	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持ちたいと希望される利用者様には、ご家族と相談して少額を持って頂いており、パンの移動販売や自動販売機でジュースを買われる等、思いおもいに買い物を楽しんでおられる。		
52	風	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話があり自由にかけられている。両替を準備している。携帯電話を持たれている利用者様もあり、家族と電話されている。いつでも電話ができるように充電の管理などを行っている。		
52	花	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきを出される時には書けない所を、代わりに書くよう支援し、思いに添えるようにしている。ご家族からの返事を楽しみにされ届いた返事を嬉しそうに見せて下さる。遠くにおられる娘さんから毎日電話がかかり、お話をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	風	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広々としたリビングには暖炉やテレビがあり、ソファには仲の良い方々がくつろがれている。天気の良い日にはデッキで日光浴やお茶を楽しまれている。中庭を囲む部屋は、竹の葉を揺らす風の音が感じられる。障子を通して月や陽の光を感じて頂いている。	リビングの大きなガラス窓から明るい日差しが差し込み、苑庭の実のなる木々や草花、畑を眺めて季節を楽しむことができる。趣のある家具やソファや椅子、畳のスペースがあり、思い思いにくつろぐことができる。室内や廊下には絵画や装飾品、季節の花を飾り、温もりのある空間となっている。トイレや浴室も清潔に整頓しており、居心地よく過ごすことができる。	
53	花	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・洗面所・リビング・玄関などに花や観葉植物を置いており、正月飾り・お雛様・七夕飾りなどで季節を感じて頂けるようにしている。日本間の窓からはブドウ・イチジク・グミ・金柑等のなりものの木が眺められ収穫を楽しむにされている。玄関や廊下には絵が飾っており、椅子やソファを置くなどして、ゆっくりくつろげる場所がある。照明も落ち着いた間接照明にしている。		
54	風	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには仲の良い方同士でゆっくり過ごせるソファがあり、お気に入りのソファでは、うとうとされていることもある。居室前の談話室は、リビングより少し離れた場所にあり、他利用者様の雰囲気を感じながら一人でくつろぐことができる場所となっている。		
54	花	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには1人掛けや3人掛けのソファがあり、その時の思いで座っておられる。ご自分のお気に入りのソファもあり、ご家族からの手紙や本を読まれている。時には、居室前のソファに座られ、お一人でゆっくりされることもある。天気の良い日は、デッキや玄関前のベンチに座られお話しされる事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	風	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分が使っておられた家具・道具・テレビ・アルバム等を持ってこられ、ご家族と一緒に居室作りをされている。ご家族との思い出の写真や、ご自分の趣味にあった装飾品を飾り自分が落ち着ける部屋作りをされている。	本人や家族が相談して、椅子やテーブル、ソファ、鏡台、仏壇などを持ち込み、ベッドや調度品をその人らしく配置している。ぬいぐるみや家族の写真、手芸作品などを飾り、本人も家族の来訪時も居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55	花	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使われていた道具や家具を持って来られている。仏壇や鏡台も持ってこられており、その方らしい部屋作りをしている。ご家族の写真を居室に飾っておられる。ご家族や知人が来苑された時に、自室でゆっくりできるようにテーブルや椅子を持ってこられている。		
56	風	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安全に過ごせるようにバリアフリーになっており、居室やリビングは引き戸になっている。廊下・居室の床材は滑りにくいものになっている。必要に応じ、居室・トイレには、利用者様の目線を意識して表示をしている。		
56	花	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーになっている。トイレ・浴室・廊下には握りやすい手すりがある。トイレは一般用と車いす用があり、利用者様に合わせ使いやすい方を使用している。車いす用のトイレは利用者様が安全に利用できる位置にバーや手洗い場、棚を配置するなどの改善をした。		